

補助事業番号	2017M-	062	補助事業者名	地方独立行政法人山口県産業技術センター	補助事業名	公設工業試験研究所等における機械設備拡充
--------	--------	-----	--------	---------------------	-------	----------------------

補助事業番号を入力ください↑

補助事業者名をご記入ください↑

補助事業名をご記入ください↑

平成29年度 JKA補助事業 自己評価書(2回目)

項番	1	/	総事業項目数	2	事業項目名	低真空走査電子顕微鏡
----	---	---	--------	---	-------	------------

↑項番と総事業項目数をご記入ください

補助事業項目名をご記入ください↑

作成月日・作成者名をご記入ください→

作成年月日	2019	年	4	月	17	日	作成者	稲田和典
-------	------	---	---	---	----	---	-----	------

1. 平成29年度JKA補助事業で整備された設備・機器についてご記入ください。

導入機器名	低真空走査電子顕微鏡
導入形態	<input checked="" type="radio"/> 更新(入れ替え) <input type="radio"/> 増設(複数台目) <input type="radio"/> 新規(初めて導入)
機器の特徴・用途	金属や無機材料等の試料表面の微細形状の観察、表面成分の分析を行う。各種素材・部品の表面変色、コーティング損傷、錆発生時や異物混入が発生した場合の原因調査、新規表面処理、表面改質技術の開発等に使用する。
機器の設置施設名	地方独立行政法人山口県産業技術センター
施設の所在地	山口県宇部市あすとぴあ四丁目1番1号

2. 以下の評価項目について、ご記入ください。

a. 個別の評価項目について、交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(3/5) 4. 補助事業の事前計画』の、達成状況等を把握し、ご記入下さい。

○ 採点基準については、平成29年度補助事業実施に関する事務手続要領『別冊評価要領』p27,28スコアリングガイドをご参照下さい。

(1) 受益者 (ニーズ)	県内企業の製造する製品や部品について、その表面の詳細な形状観察や成分の分析は、製造工程改善、品質の維持、不具合原因調査、新製品開発等においては必要不可欠な評価手段である。本機器は、これらの評価を、金属、セラミックス、樹脂等の幅広い材料に対して行うことができ、このため既設機器は多くの企業に利用されてきた。しかし、既設機器は老朽化による不具合の頻発や検出感度の低下等により企業支援業務に支障をきたしていた。更新後の利用者も想定どおりであり、高水準の稼働率を維持しており、利用した企業の満足度も高かった。			採点	
				4	
(2) 事業内容	事業の新規性	本補助事業により整備する機器と同種の既設機器は平成11年度の整備から既に16年が経過し、頻繁な測定中の動作不良、成分分析検出器の劣化による信号検出感度の低下等の多くの問題が生じており、適正かつ効率的な使用の妨げとなっていた。本機器ではこれらの問題点が解決できることに加え、新たに大型の試料が分析可能となったこと、5,000倍程度以上の高倍率観察でも鮮明な画像が得られること、低真空モードによる水分を含んだ試料の観察画像がより鮮明になったなど、より高機能で効率的な分析が可能な想定どおりの新規性があった。		採点	
	または 継続の必要性			4	
(3) 達成目標	事業の発展性	本補助事業により整備する機器により、これまでできなかった高倍率での観察・成分分析が可能となることや試料室の大型化により従来分析できなかった200mm径程度の大型試料の評価も可能となるなど、企業ニーズに合わせた幅広い用途に利用できるようになり、想定どおりの効果があった。また、本県が成長産業と位置付けている医療・環境・エネルギー、バイオ、水素、宇宙機器の各分野においても、部材の表面分析による新規製品開発や不具合調査等に活用できる。		採点	
	事業の成果・波及	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
※自己評価1回目から変化があった場合にご記入ください。		1. 利用時間 54.3時間/月(目標50時間/月) 2. 満足度 93.5%(目標70%)	1. 109% 2. 134%	1. 利用時間は目標を超えることができた。 2. 利用者の満足度は目標を超え、高水準であり、地域企業へ対する波及効果は十分あったと考える。	5

b. 交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(2/5) 3. 補助事業実施の必要性(1)補助事業が最終的に目指すこと』の、達成状況をご記入下さい。

利用時間は目標を超えており、当初想定したとおりの利用があった。また、実際に機器を利用した企業からのアンケートの結果からも満足度が高く、地域の企業ニーズに合った機器を導入することができたと言える。補助事業の目標である県内中小企業の製造工程改善、品質管理技術の向上、製品開発等における製品等評価技術の向上が実現できたと考える。今後も企業訪問や研究会などでのPRにより、更なる機器の利用促進を図る。
--

補助事業番号	2017M-	062	補助事業者名	地方独立行政法人山口県産業技術センター	補助事業名	公設工業試験研究所等における機械設備拡充
--------	--------	-----	--------	---------------------	-------	----------------------

補助事業番号を入力してください↑

補助事業者名をご記入ください↑

補助事業名をご記入ください↑

平成29年度 JKA補助事業 自己評価書(2回目)

項番	2	総事業項目数	2	事業項目名	引張圧縮試験機
----	---	--------	---	-------	---------

↑項番と総事業項目数をご記入ください

補助事業項目名をご記入ください↑

作成月日・作成者名をご記入ください→

作成年月日	2019	年	4	月	17	日	作成者	稲田和典
-------	------	---	---	---	----	---	-----	------

1. 平成29年度JKA補助事業で整備された設備・機器についてご記入ください。

導入機器名	引張圧縮試験機
導入形態	<input checked="" type="radio"/> 更新(入れ替え) <input type="radio"/> 増設(複数台目) <input type="radio"/> 新規(初めて導入)
機器の特徴・用途	金属やプラスチック等の材料における強度や伸びなどの機械的特性を測定する。製品・部材開発等における強度・変形の測定や材料特性の測定に利用する。
機器の設置施設名	地方独立行政法人山口県産業技術センター
施設の所在地	山口県宇部市あすとぴあ四丁目1番1号

2. 以下の評価項目について、ご記入ください。

a. 個別の評価項目について、交付誓約書添付の『事前計画/自己評価書(3/5) 4. 補助事業の事前計画』の、達成状況等を把握し、ご記入下さい。

○ 採点基準については、平成29年度補助事業実施に関する事務手続要領『別冊評価要領』p27,28スコアリングガイドをご参照下さい。

(1) 受益者 (ニーズ)	県内企業が製造する機械器具製品やプラスチック製品等の製品における機械強度や耐久性などの信頼性や軽量化に対する要求が厳しくなっており、県内企業は製造する製品を適正に評価することが求められている。本機器は、製品の開発や製造時の機械強度等の評価に欠かせない機器であるが、既設機器は、老朽化による不具合が多く、中小企業が高価な本機器を整備することは容易ではないため、機器アンケートにおいて更新の要望が非常に高かった。更新後の利用者は想定どおりであり、利用した企業の満足度も高かった。			採点	
				4	
(2) 事業内容	事業の新規性 または 継続の必要性	本補助事業により整備する機器と同種である既設機器は平成11年度の整備から既に16年が経過しており、試験中に停止するなど制御装置の動作が不安定であり、加えて、大荷重ロードセル用ジグが損傷し使用不可なことや装置本体カバーの破損等多くの問題を抱えており、適正かつ安全な使用の妨げとなっていた。本機器はこれらの問題点を解決できるとともに、新たに制御ソフトウェアによる荷重制御試験やサイクル試験等任意の動作パターンでの試験が可能となり、県内企業からの要望に十分に対応できることとなり、想定どおりの新規性があった。		採点	
	事業の発展性	本補助事業により整備する機器により、これまでできなかったサイクル試験や任意の動作パターンの試験等が可能となるため、耐久性試験や実際の使用状態に合わせた試験など、幅広い用途に利用できるようになった。また、既設機器は老朽化等の問題から利用企業から要望の多かった検定(校正)が実施できなかったが、本機器は、導入を機に継続的な検定を実施し、試験結果の信頼性を確保することで幅広い企業ニーズを満たした試験環境を提供できるようになり、想定どおりの効果があった。また、本県が成長産業と位置付けている医療、環境・エネルギー、バイオ、水素、宇宙機器の各分野においても、部材の強度特性評価による新規製品開発等に活用できる。		採点	
(3) 達成目標	事業の成果・波及	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	※自己評価1回目から変化があった場合にご記入ください。	1. 利用時間 23.8時間/月(目標25時間/月) 2. 満足度 95.2%(目標70%)	1. 95% 2. 136%	1. 利用時間はやや下回ったが、稼働日数は前年比で増加し加えて従来利用の無かった企業の利用が大幅に増えていることから、想定外の効果があったと考える。 2. 利用者の満足度は目標を超え、高水準であり、地域企業に対する波及効果は十分あったと考える。	5

b. 交付誓約書添付の『事前計画/自己評価書(2/5) 3. 補助事業実施の必要性(1)補助事業が最終的に目指すこと』の、達成状況をご記入下さい。

<p>利用時間は目標をやや下回ったが、稼働日数や利用企業数は前年を大きく上回って推移している。機器を利用した企業のアンケート結果からは満足度が高く、地域の企業ニーズに合った機器を導入することができたといえる。補助事業の目標である県内中小企業の製品や部品などの強度等の機械的特性評価が可能となり製品等評価技術の向上が実現できたと考える。今後も企業訪問や研究会などでのPRにより、更なる機器の利用促進を図る。</p>
--